アドミッション・オフィス入試
[第２次審査]

大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科

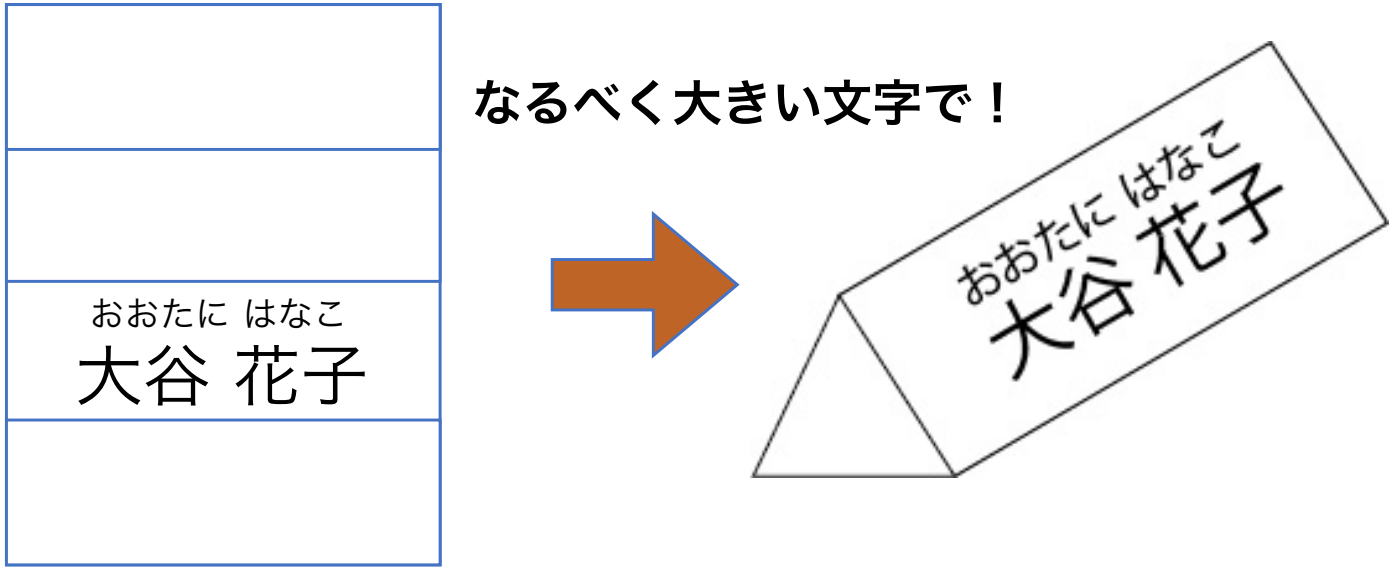
Be Real 寄りそう知性 大谷大学

アドミッション・オフィス入試

[第2次審査]に際しての準備

◆指定された席に座ってください。

◆紙(A4)とマジックを配布しますので、座席用の名札を作成してください



セミナー(グループディスカッション)

セミナーでの評価 (グループディスカッション)

グループディスカッションでは、次の事項を評価します。

1.理解力

出された課題を正確に理解できているか

2.積極性

ディスカッションに積極的に参加しているか

3.コミュニケーション力

他のメンバーの意見に耳を傾ける等、意思の疎通はスムーズにできているか

4.自己表現力

適切なタイミングと態度で自分の意見を主張しているか

セミナー(グループディスカッション)の流れ

11:00-11:10 (10分)

- 進め方の説明
- 前回の講義のおさらい
- グループディスカッションのお題提示

11:10-11:15 (5分)

- 個人でお題を考える時間

11:15-11:45（30分）

- グループでの議論、発表資料の作成

11:45-12:00（15分）

- 議論の結果の発表(1グループ４分)

12:00 終了

地域のなかでも特に「地方」（東京圏以外）が抱える課題

■ 人口減少と高齢化が依然として深刻な課題（2045 年の全道府県の人口は、2015 年より少ないという推計がある）。
■ 人口減少と高齢化が地域経済を縮小させ、さらなる人口減少と少子高齢化につながる悪循環を加速させるおそれがある。

地方の課題（人口減少、高齢化と地域経済縮小の悪循環にかかわるもの）

①労働力不足	地方の企業活動が停滞
地方企業の大多数たる中小企業では既に人手不足感。今後続く高齢化に伴う労働力不足が、地域の企業活動を停滞させる可能性	
②経営者の後継者不足	地域経済を支える企業が消滅して、地域経済が縮小。
2025 年に70 歳超の中小企業経営者の約半数は後継者未定。後継者未定の中小企業等の多くは黒字企業（約半数）	
③働く場所・働き方の多様性の低下	魅力的な働き場所が少なくなった地方から、若者がさらに東京圏に流出し、少子高齢化が加速。教育機会の提供者が減り、キャリアアップやスキルアップのために必要な再教育を受けづらいために、多様な働き方を求める人材が活躍できる場所が減り、移住者も定着しない。
④地方経済・社会の持続可能性の低下	地方の企業活動が一層停滞し、基幹産業が衰退。地域経済がさらに縮小

■ 人口減少と高齢化、地域経済の縮小により、地方の他の社会課題がより深刻化するおそれもある。

深刻化するおそれのある上記以外の地方の社会課題例

介護人材の東京圏への流出	東京圏は介護ニーズの増加率が全国で最も高く、地方の介護人材がさらに流出するおそれ
地方都市の「スポンジ化」への対応、集落機能の維持	古い空き家・空き地等が無秩序に大量発生し、生活・行政サービスや社会インフラの維持が困難に 生活利便性・サービス産業の生産性の低下、行政サービスの非効率化が進行 治安・居住環境の悪化、コミュニティの存続危機、災害危険性が増大するおそれも
切迫する巨大災害への備え不足	被害が東日本大震災を上回るとされる南海トラフ地震は、30年以内に70%程度の発生確率

（出所）内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の資料等を参考に作成

（主な参考文献）
❶閣議決定「まち・ひと・しごと創生総合戦略（2018 改訂版）」平成30年12月21日
❷内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来に予想される社会変化」第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に関する有識者会議（第1回）、平成31年3月11日
❸国土交通省社会資本整備審議会「都市計画基本問題小委員会中間とりまとめ」平成29年8月10日

出典　総務省「AIインクルージョン推進会議（第5回）配布資料　資料２ 地域・地方の現状と課題」令和元年6月19日

東京一極集中の要因等

考えられる東京一極集中の要因

（1）修学・就職等のために20代前後の層が東京に流入

① 大学の学校数や学生の東京圏への偏在

② 本社や大企業の東京への集中・東京一括採用

③ 賃金の高さ

（2）魅力・利便性・自由度の高さ等を求めて東京に流入

① 東京への憧れ

特に女性で顕著

② レジャー・娯楽

③ 交通や日常生活の利便性の高さ

④ 地元の閉塞感・男女の役割分担意識への不満

（3）一度東京に来ると、地方に移住しにくい環境

① 終身雇用制

② 地域限定や職務限定職員の希望と採用のギャップ

③ 子供の教育環境

東京一極集中のリスク

（1）首都直下地震等が切迫する中で諸機能・施設が東京に集中するリスク
（リスクへの認識の低さを含む）

今後、さらに一極集中を促進しかねない要素

（1） 人口減少による東京の過密度の低下
⇒ 東京流入のハードルを下げる方向

（2） 東京圏における高齢者の増加が、ケアする若者世代をさらに呼び寄せる可能性

（3） 東京生まれ東京在住者の増加

一極集中緩和の可能性のある要素

（1） テレワークの進展による「職場と仕事の分離」
（技術革新×新型コロナ対応）

（2） 地方移住への関心の高まり

（3） 「豊かさ＝賃金の高さ」からの意識転換

1

出典：国土交通省「国土の長期展望専門委員会（第10回）配付資料　資料２　東京一極集中の是正方策について」,令和2年11月30日

小論文試験 問題

１.「身近な地域コミュニティにおいて生起する(生じる)諸課題」のうち、あなたが特に関心がある、あるいは解決したいと考えている課題にはどのようなものがありますか。できるだけ具体的に挙げてください。

２．「１.」で挙げた課題が生じる原因や背景には、どのようなことが挙げられますか。

３．「1.」で挙げた課題を解決するために「誰が」「どのような取り組みを行うこと」が有効だと考えますか。
なお、解決策は複数でもかまいません。

グループ・ディスカッション 課題

あなたたちは京都府の地方都市である大谷市の市役所において、地域振興策の立案を担当するメンバーである。

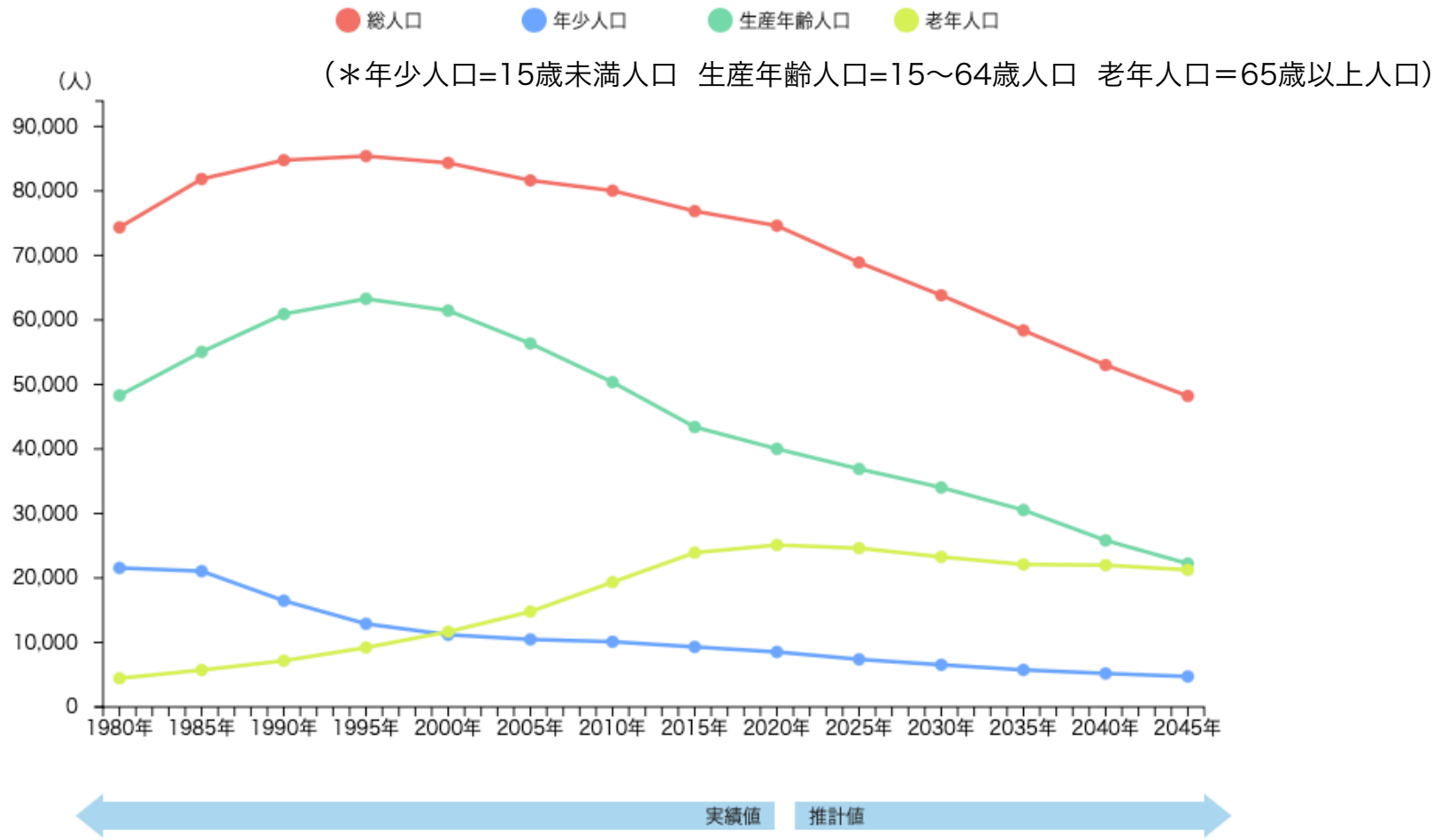
次に挙げる「大谷市の概要」及び先週の講義内容を踏まえて、人口減少や地方経済の縮小などの課題の解決につながる「ワクワクする地域振興策」を考えなさい。

なお、地域振興策は、最初に個人で考えた後に、グループで話し合い、最終的にはグループで４分間の発表としてまとめること。

大谷市の概要

・京都府の北部に位置する人口75,000人の内陸の地方都市。人口推移はグラフの通りである。

・京都市からは電車、車ともに２時間ほどかかる。



大谷市の概要

・小学校が10校、中学校が５校、高校が２校。大学はない。廃校となった校舎もあるが活用方針は未定。

・市内には大谷城跡があり城下町を起源とする中心市街地には歴史ある木造建築や古くからのお店も残る。

・その一方、中心市街地は高齢化率も高く、近年は空き家や空き店舗も増加し、まちの賑わいが失われつつある。

・市内の鉄道(電車)は利用者の減少による赤字が続き、大幅な減便も検討されている。現在の主な利用者は買い物、通院に利用する高齢者、通学利用の高校生である。この他、お花見や紅葉のシーズンには観光客の利用も多い。

大谷市の概要

・観光名所は、城跡の公園や旧城下町の町並みが挙げられる。

　観光に来る層は50代以降が中心で高齢者も多い。電車や車で２時間以内という近隣からの来客が多い。

　宿泊施設が少ないためか、観光客の多くは日帰りである。なお一人あたりの観光消費額は、日帰り客が4,200円、宿泊客が22,000円であった。

・この他、山や川など豊かな自然も有している。

　近年のキャンプブームもあり、無料のキャンプ場に人も数多くの人が訪れ賑わった。しかし、ごみの放置や騒音を引き起こすなど観光公害の拡大も懸念されている。

大谷市の概要

・地域の主要産業は、繊維産業を主とした製造業。
　グローバルな経済社会情勢の影響も受けつつも、事業所数や売上は維持できている。経営者や従業員の高齢化が進み、担い手確保が課題である。

・また、稲作、果樹栽培（イチゴ、ぶどう）など農業も盛んである。ただし、山あいの集落では高齢化や後継者不足のため、耕作放棄地が増加しつつある。